

やま との山・アレキリ遺跡（第2次）最終

所 在 地： 度会郡 玉城町 中角（わたらいぐん たまきちょう なかつの）

位置情報URL：[三重県地図情報サービス との山・アレキリ遺跡発掘調査現場](#)

本年度の との山・アレキリ遺跡 の発掘調査が終わりました

平成28年10月上旬より行ってきたとの山・アレキリ遺跡の発掘調査も、12月末をもって無事に終了することができました。今回の発掘調査に際して、地域のみなさまを始め、多くの方々にご協力をいただきました。ありがとうございました。

今年度の調査は、用水管の改修工事に伴う調査であったため、幅約1mの細長い調査区を調査する形の発掘となりましたが、その分、遺跡の広範囲にわたる部分を調査することができ、これまで明らかになっていなかったこの地域の歴史的な背景が少しずつ明らかになってきました。HP最終回にあたる今回は、その成果を中心にご紹介します。

○奈良時代の集落の存在

昨年度の調査と合わせて、8棟の竪穴住居が確認されました。そのうち、昨年度確認された2棟と今年確認された3棟はとても近接しており、この住居内や周辺の遺構で出土する遺物についても、同じ時代のものと思われるものが多く存在しました。さらに、それらの棟の近くにも、近代の造成によって崩れてしまった竪穴住居とも思われる遺構が2つほどあることからも、奈良時代前後の集落の存在の可能性が高くなりました。



竪穴住居の遺構と復元イメージ図

また、2棟の竪穴住居には、カマドの跡も認められています。1つからは、奈良時代の甕だけでなく、魚をとる網につけるおもり（土錘）も見つかりました。この地は段丘上に存在しますが、近くの小川や東側に流れる宮川（一級河川）まで漁に出かけたのでしょう。



住居内で見つかった土錘

○奈良時代の土坑と住居の可能性

直径約5mの大きな土坑が見つかりました。そこでは、奈良時代の土器が集中して出土しました。不要になった調理用の土器をまとめて捨てたものと考えられます。この土坑の周りには、奈良時代の遺構はほとんどなく、鎌倉～室町時代の遺構が多く見られましたが、

もしかすると今回調査しなかった畠のところに、奈良時代の住居があったかもしれません。

また、この大きな土坑は、袋状にえぐれて深く掘られており、^{まいど}埋土（埋まった土）の状況を観察してみると、何度か掘り起こして埋め戻す行為をした様子も見られます。ごみ捨て場のような使い方をされたのではないかと思われます。さらに、これほどの大きなごみ捨て場が必要となるには、複数の住居が存在したのではないかという推測ができます。



5mの大きい土坑

ちなみに、1970年の調査において、この辺りから旧石器時代のナイフ形石器や縄文時代の石鏃（矢じり）が見つかっています。今回のこの土坑からも縄文時代の石鏃（サヌカイト製）や、旧石器時代あるいは縄文時代の石の剥片（チャート製）が見つかりました。近くに江戸時代の大きな土坑も見つかっており、昔から途絶えることなくこの地に人が暮らしていたこともわかりました。

○出土した遺物



先ほど説明した5mの大きな土坑から集中して出土した土器片を接合してみると、ほぼ完形に近い土師器を多数復元することができました。どれも奈良時代の特徴を示す土器です。中でも、これほど原形がわかる飯が出たことは、これまでの三重県の調査でも希で、大変貴重な発見といえます。また、今回見られた把手付きの壺についても、不思議な形に

加工されており注目されます。底の部分が一定の高さまで打ち欠かれていて、また、口も片側を大きく欠いています。逆さにするとカマドのような形にもなるのですが、カマドとして使用したのであれば内側に煤^{すす}が付いていたり被熱^{ひねつ}の跡があつたりするのですが、それも見られません。どのように使われたのか想像が掻き立てられます。



溝にまとめて出土した甕の破片を接合してみると、立派な奈良時代の甕に復元することができました。水の流れで流されてきたのではなく、人為的に捨てられたものと思われます。



遺構を検出しているときに、鮮やかな緑色の遺物が見えました。奈良～平安時代の高級な器・緑釉陶器^{りょくゆうとうき}のかけらでした。この地に、このような高級な品物を所有できる有力な人物が住んでいたことが分かります。

○地元説明会

11月19日（土）に地元地域の方々に向けた説明会を実施しました。2つの調査区を公開する予定でしたが、あいにくの天気になり、1つの調査区のみの公開となりました。しかし、そのような天気の中でも、ご近所さんと誘い合ったり、ご家族揃ってお越しいただいたりして、多くの方にご来場いただき、盛況なうちに説明会を終えることができました。

来場されたみなさんは、土器の立派な出土状況に驚かれたり、実際に遺物に触れて納得されたりしていました。中には、昔からの言い伝えを私たちに語ってくださる方もいらっしゃいました。来場されたみなさんが、それぞれこの地での昔の生活に思いを馳せているようでした。



地元説明会当日の様子
(上：遺構説明、下：遺物説明)

<問い合わせ先>

〒515-0325 三重県多気郡明和町竹川503

三重県埋蔵文化財センター調査研究1課

担当者：中井・谷口・萩原・村田

電話：0596-52-1732 FAX：0596-52-7035